

学校だより

卒業式号

令和5(2023)年
3月16日(木)発行



札幌市立屯田中央中学校

TEL.011-771-5981

[URL] <https://www.tondencho-j.sapporo-c.ed.jp/>

第42回 卒業式 式辞

開拓の心を受けついでこの屯田の大地も雪解けが進み、春がすぐそこまで近づいてきたことを感じさせます。そのような今日のよき日に、PTA会長 大河原 好博様をはじめとして、学校評議員、本校PTA役員などのご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、第四十二回卒業証書授与式を挙行できますことを、心よりお礼申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。思えば皆さんはCOVID-19の感染拡大防止のため新しい生活様式が始まった年の入学でした。入学式が終わってもまもなく、休校となり、不安な気持ちを抱えたままスタートした中学校生活も3年が経とうとしています。校内の生活は今まで当たり前だった学習活動も、行事も、部活動も中止や大きな変更を余儀なくされましたが、皆さんはできることに工夫しながら取り組み、しっかりと前に進んで成長してくれました。互いを認め、理解したり、励ましたり、支え合う気持ちや時間を大切に、皆で心をつなげて活動することから得られた大きな感動は、そんな中だからこその層強く育まれたのではないのでしょうか。先日渡された卒業アルバムを見ると1年ごとに身体と表情が成長していく様子が手に取るようにわかりました。この中学校3年間で学んだことや感じたことは、今まで誰も経験したことのない唯一無二のものであり、これからの皆さんの大きな財産になっていくものです。そして、その陰には皆さんの成長を願い応援してくれた保護者の方々を始め、多くの人々に支えられていたことを忘れてはなりません。ぜひ、感謝の気持ちを伝えてほしいと思います。

さて、義務教育を修了し、新たなスタートラインに立つ皆さん。皆さんのこれからの成長を願い2つのことを伝えます。

1つ目は自分で決めて選んだことは後から正解にできるということです。Appleの創業者のひとりスティーブ・ジョブズは人生における様々な選択や経験を「点(dot)」と表現し、「将来、点と点がどう繋がるかを事前に知ることはできない、すなわちその時の自分の選択が正解かどうかはわからないけれど、選択した後の行動で、正解にすることができる。」という言葉を残しています。選択に迷ったときはどちらが正解で、どちらが不正解ということはないのです。大切なのは自分で決めて選んだことを後から正解にしていく行動と気持ちです。例えば、取り組んでいたことがなかなかうまくいかず希望と別のことを選んだとしても、そこで素晴らしい人と出会ったり、思いもよらなかった成果をあげたりするかもしれません。自分で決めたことは後からいくらかでも正解にできると考え、これからの新しい生活に誠実に真剣に取り組んで欲しいと思っています。

2つ目はこれからもこの屯田という地域を大好きでいてくださいということです。この地域は明治22年、220戸の屯田兵が入植して以来、どんな困難にも強い団結と不屈の努力によって乗り越え、拓かれてきました。その開拓の心を受け継ぐこの地は現在では約3万8千人が暮らし、19歳までの子どもの人口は札幌市で2番目に多い、活気あふれる地域です。本日、地域の人たちは、感染症対策のため参列は叶いませんでしたが、いつも皆さんの健全な成長を願い、時には見守り、時には心配していただくなど陰からたくさん支えてくださいました。そんな温かな眼差しの中で生活し、育てていただいたことに感謝するとともに、これからもたくさん好きになって、この地域で育てられた若者として、今後大いに貢献して欲しいと思っています。もし進学や就職でこの地を離れることになっても、いつも心の中に屯田を思い留め、チャンスがあれば将来この地域を担う、そんなふるさとを大切に作る人に成長してもらえればと願っています。

保護者ならびにご家族の皆様、お子さまのご卒業、誠にありがとうございます。今日のお子様の成長された姿に感慨もひとしおのことと存じます。感染症の影響により、計り知れぬご苦労もあったかと存じますが、力強く旅立つお子様の晴れの日を皆様と共に迎えられることを、教職員一同、心から喜びに感じております。今日までの三年間、本校の教育活動にご理解をいただきましたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

最後に卒業生の皆さん、これからの人生で困難に直面するかもしれません。そんなときも後から正解にできることを信じて常に前を見て進んでください。自分と同じように周囲の人も大切にして、豊かな人生を送ってくれることを願って、式辞といたします。



令和五年三月十五日

札幌市立屯田中央中学校 校長 吉本 晋

送る言葉



冬の厳しい寒さも和らぎ、だんだんと春の暖かさを感じられる季節になりました。本日、屯田中央中学校を旅立つ三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私たち在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

期待と不安を胸に屯田中央中学校の門をくぐった三年前。当時は少し大きめだった真新しい制服に身を包み、中学校生活のスタートを切ったあの日のことを覚えていますか。COVID-19の影響により、お互いの顔もしっかりと見られない中、行事も部活動も満足に行えず、不自由なことだらけの毎日だったと思います。わからないことばかりの一年生なのに、できないこと、やってはいけないこと、やらなければならないことが今までと

は大きく異なり、消毒、手洗い、距離など友達と仲良く過ごすことすら許されず、本当にご苦労なされたことでしょう。

そんな中でも、みなさんは「先輩としてあるべき姿」をしっかりと学び取り、後輩の私たちを引き継ぐために様々な場面でその姿を見せ続けてくれました。

部活動ではたくさん叱ってくれました。「なんでできないの?」「やる気ある?」そう言われた時に、私たちは何度も悔しさで腹を立て、挫折しそうになりました。でも、できるようになった時には自分のことのように喜び、時には自分のこと以上に涙まで流してくれたみなさん。試合では、常に全力で相手に立ち向かい次々と撃破する、そんなみなさんの姿は、私たちの憧れでした。

委員会や行事では、常に先頭に立って引っ張ってくれました。あいさつが素晴らしく、問いかけに対してはいち早く反応し、話すことに困っていたときの確かなアドバイスをしてくれました。華林祭では次々によりアイデアを出し素敵な企画を作り上げ、場を盛り上げるための司会やインタビュー、パフォーマンス等、私たちを大いに楽しませてくれました。また、みなさんにとってたった1回の合唱コンクールでは圧倒的な合唱で私たちを魅了し、合唱コンクールの意義を教えてくださいました。あの素敵な合唱は、金色に輝く最高の目標となりました。

毎日の生活の中では、私たちが勉強や友人関係で悩み苦しんでいるとき、温かい言葉で励ましてくれたり、自分の経験談などでさりげなく進むべき道を示してくれました。私たちにとっては、もし困ってもきっと先輩がなんとかしてくれる、そんな支えでもありました。

憧れであり、目標であり、支えであったみなさんが卒業してしまうことは、とても寂しく不安でしかありません。ですが、みなさんにはこれからまた様々な道が待っています。その中には辛く、悲しいものもあり、大きな壁となって立ちのぼることがあるかもしれません。そんな時は屯田中央中学校での日々を思い出してください。私たちとともに様々な苦難を乗り越えてきた日々を思い出し、どうか負けずに突き進んでいってください。私たちもみなさんに負けないように、受け継がれた伝統を守り、新しい後輩たちに引き継いでいこうと思います。

最後になりますが、みなさんと過ごした日々は、私たちにとってかけがえのない楽しい毎日でした。本当にありがとうございました。みなさんのご健康とご活躍を祈念して、送る言葉とさせていただきます。



令和五年三月十五日
在校生代表 坂本 優愛



旅立ちの言葉



日差しが日一日と暖かさを増し、春の訪れを感じる今日、私たち第42期生は卒業の日を迎えました。

本日はお忙しい中、私たちのために素晴らしい卒業式を挙げてくださり、誠にありがとうございます。

先生方をはじめ、ご来賓、保護者の皆様にご臨席いただく中で卒業できることを卒業生一同を代表し厚くお礼申し上げます。

思い返すとこの3年間、あっという間でした。私の心の中に数え切れないたくさんの思い出が昨日のこのようによみがえってきます。

3年前の春、真新しい制服に身を包みCOVID-19のため保護者の参列ができない中、不安と希望をいただきながら門をくぐった入学式。知らない人ばかりの教室に戸惑いを感じましたが、今はたくさんのかけがえのない友人を得ることができました。その友人たちと共によく遊び、そして勉強に励んだ時間はとても楽しく、とても有意義なものでした。

1年生、初めての経験がたくさんありました。教科ごとに先生が替わったり、定期テストがあったりと小学校との違いに驚きました。校外学習では、グループに分かれ屯田を探索し、歴史を知ることで改めて自分たちの住んでいる町について考えることができました。また、スポーツ大会では小規模ではありましたが、各クラスが優勝を目指し一致団結して行うことができました。クラスの友情が深まった大会でした。

2年生、初めて後輩ができました。「先輩」と言われることに、くすぐったさを感じながらも、先輩としてしっかりしなくてはと密かに自分に喝をいれました。宿泊学習では小樽の街を散策したり、ウポポイでアイヌ文化について学びました。実際に昔の文化に触れて、見て、生の声を聴くことで学校の中だけでは学ぶことのできない体験をすることができました。

私は2年後期から生徒会長として様々な学校行事に力を入れてきました。制約のある中で、少しでも学校生活が楽しくなるように、明るくなるようにと先生方のご指導のもと、生徒会の仲間と一緒に積極的に活動してきました。

3年生、心に残る行事がたくさんありました。

修学旅行では東北へ行き、初めて友達と2泊3日という長い時間を一緒に過ごしました。平泉の中尊寺金色堂や毛越寺の座禅体験も印象的ですが、移動時間でのゲームや友達との何気ない会話がとても楽しく一番の思い出として残っています。



華林祭では皆、前年度よりも良いものを作ろうと、朝から晩まで頭を悩ませ、時にぶつかり合いながらも一丸となって準備、運営を行いました。当日はその甲斐もあり笑顔あふれる学校祭になりました。中でも先生たちを巻き込んだキツネグンスは大きな盛り上がりを見せました。この華林祭を通して1つの物を作り上げる大変さや仲間と協力し合う大切さを学びました。

そして3年間で唯一の合唱コンクール。COVID-19により、1、2年は開催できませんでしたが、3年で初めて歌うことができました。金賞を目標に各クラス一生懸命練習しました。その努力が実を結び、3年生はすべてのクラスが金賞をとることができました。先生方からもとても良い評価をいただくことができました素晴らしい思い出となりました。

そして、最大のイベント受験。ほとんどの3年生が初めての経験で、不安や緊張、焦りなどの中、仲間と切磋琢磨しながら勉強してきました。将来へ向けて自分を見つめなおし、考え、そしてそれに向かって努力するということを学びました。

私たちがこれまでに様々な目標に向かって頑張ってきたのは、先生方の厳しくも優しさのこもったご指導並びに保護者の方々の応援、励ましがあったからです。私たちを信じてサポートしてくださったことを心から感謝しています。本当にありがとうございました。

そして、誇りをもって前に進めたのは在校生の皆さんが私たちを信じてついてきてくれたからです。これからは皆さんがこの屯田中央中学校を創り上げていく番です。バトンを託します。伝統を守りよりよい学校を創るために頑張ってください。

私たちは今日でこの学校から巣立ちます。別れは少し寂しいですが、ここで同じ歳月を共に過ごした仲間という宝物、そしてたくさんの思い出を胸に新たな冒険へと出発します。私たちはこれからそれぞれ違う道へと進みますが、未来に向かって一步一步力強く歩んでいきます。

最後になりますが、皆様方のご健康と屯田中央中学校のますますの発展をお祈りして、旅立ちの言葉といたします。

「3年間、本当にありがとうございました。」



令和五年三月十五日
卒業生代表 宮本 一輝

